

大津市肺がん結核検診受診にあたって（事前説明書）

肺がんは、わが国においてがん死亡の上位に位置するがんです（男女合わせて1位）。また、結核は過去の病気ではありません。いまだに年間1万人以上の新たな結核患者が見つかっています。

胸部エックス線検査及び喀痰細胞診による肺がん検診は、死亡率減少効果があるとされています。肺がんや肺結核などの肺の病気や心臓の病気を早期に発見し、早期に医療につなげるために実施しているため、**検診の結果、「要精密検査」となった場合は、必ず精密検査実施医療機関を受診してください。**精密検査は保険診療となります。

※結果説明時に精密検査実施医療機関を紹介し、予約をとります。

◆検診方法：胸部エックス線（レントゲン）検査です。



以下に該当する場合は、^{かくたん}喀痰検査も実施します。

- ・50歳以上で、喫煙指数（1日喫煙本数×喫煙年数）が600以上の人
⇒ たんを採る容器をお渡しします。（裏面参照）

《胸部エックス線検査をお受けいただくにあたって》

●放射線による影響は大丈夫？

普通に生活をしていても、宇宙線や地中から自然の放射線を浴びています。胸部エックス線検査による被曝は、これら自然の放射線による年間の被曝の1/48程度ですから、これで放射線障害や発がんについて心配する必要はありません。

◆検診料：

胸部エックス線検査のみの場合・・・800円

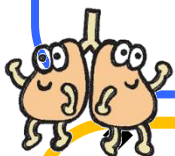
喀痰検査（必要な人のみ）・・・1,000円

※70歳以上の人、生活保護世帯等、市民税非課税世帯の人及び65～69歳の後期高齢者医療制度加入者は無料です。

また、大津市国民健康保険加入者は助成があるため無料です。

※胸部エックス線検査については、65歳以上の人は無料です。

※生活保護世帯等及び市民税非課税世帯の人は、検診票の「検診料減免確認承諾欄」に署名してください。



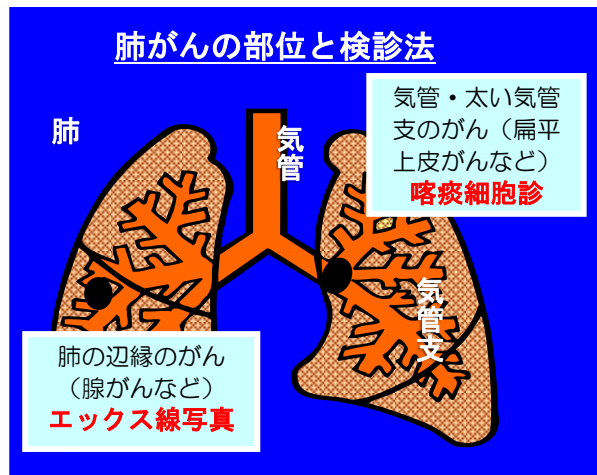
◆検査結果について

- ・胸部エックス線写真の読影を2名の医師で実施します。そのため、結果がでるまでに、約1か月程度かかります。
また、喀痰検査を実施される場合は、喀痰検査の結果も合わせて総合判定をするため、検診結果がでるまでに時間を要する場合がありますのでご了承ください。
検診結果は、検診を受けた医療機関から説明を受けましょう。
- ・今回の検診で、がんが100%見つかるわけではありません。
また、がんがなくても「要精密検査」となることがあります。
- ・なんらかの自覚症状がありましたら、結果に関わらず医療機関を受診してください。
- ・検診の結果が「異常なし」でも、1年度に1回検診を受けましょう。

かくたん かくたんさいぼうしん
喀痰検査（喀痰細胞診）が必要と言われた方へ

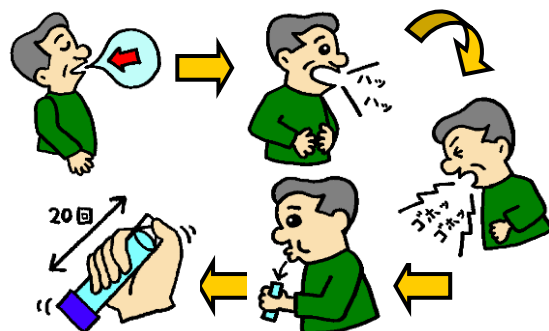
エックス線で見つかる肺がんと喀痰細胞診で見つかる肺がんはタイプが異なります。気管や太い気管支など肺の入り口に近い部分にできやすい扁平上皮がんは、「たばこの関係が極めて濃厚」と言われています。喫煙者にはたんの検査も受けていただく必要があります。

喀痰検査では、たんの細胞の中にがん細胞がないかを調べます。



たんのとり方

- ◆ 3日間のたんをとります。
- ◆ 朝起きたときのたんを、採取容器に溜めてください。
- ◆ たんの出し方の例
 - ① 上半身の軽い体操をしておくといよ。
 (腕をぐるぐる動かす、首を動かすなど)
 塩水かぬるま湯でうがいしておくのもよい。
 - ② 口を大きく開き、大きく息を吸い込む。
 (お腹を膨らませる=腹式呼吸)
 - ③ 「ハッ、ハッ」と勢い良く吐き出す。(声は出さない)
 ・ ・ 5~6回繰り返す
 - ④ 後に咳ばらいをする。のどに何かひっかかったようなら、隣の部屋まで聞こえるような強い咳ばらいをして(声を出さず、「カーッ」という)のどの奥から「たん」を出す。
- ◆ 「たん」を指定の容器に入れ、もれないようにしめて、その場ですぐ、たてに20回ほど、よく振ってください。



たんは気道の分泌物です。必ず出ますので、がんばって出してください。

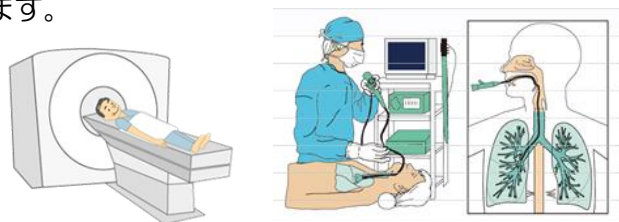


主な精密検査方法

主な精密検査方法は、C T検査や気管支鏡検査です。

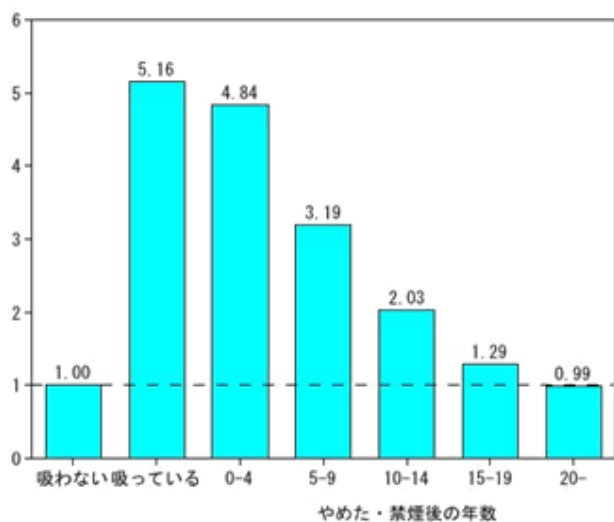
C T検査・・・体の周囲からエックス線をあてて、体の断面を画像にし、がんの有無や広がりなどを確認するものです。

気管支鏡検査・・・直径 6mm 程度の気管支鏡を鼻、あるいは口から挿入し、気管支の中を観察するものです。鼻、あるいは口に局所麻酔を噴霧した後、気管支鏡をゆっくりと挿入し、時々、局所麻酔液を散布しながら観察します。



肺がん予防には禁煙が重要です！！

もともと喫煙しない場合を1とした肺がん死亡危険度 (倍)



左図は、禁煙後の年数別にみた肺がん死亡率の危険度を表しています。肺がん死亡する危険度は、現在喫煙者ではもともと喫煙しない人の5.16倍も高いですが、禁煙者では禁煙後の年数が増えるにつれて危険度は減ります。

また、禁煙を始める年齢は早いほうが、肺がんの死亡率が減ることも報告されています。

禁煙は肺がん予防の第一歩